

令和4年度埼玉県社会福祉大会の実施結果について ともに支え合い明るい未来へ ～すべての人に健康と福祉を～

埼玉県の福祉の向上に功績のあった団体や個人の方々を表彰し、その功績をたたえました。

また、社会福祉の一層の増進を目指して、参加者一同の総意の下、「大会宣言」が採択されました。

1 日時 令和4年11月2日（水）11：00～11：35

2 会場 埼玉会館大ホール

3 概要

(1) 表彰	埼玉県知事表彰	645名	60団体
	埼玉県社会福祉大会会長表彰	1330名	56団体
	埼玉県共同募金会会長表彰	88名	57団体

(2) 知事挨拶

本県は、少子化や急速な高齢化に伴う本格的な人口減少社会を迎えます。

地域社会においては、単身高齢世帯の増加や核家族化の進行に伴い、地域のつながりの希薄化や社会的な孤立などの問題が顕在化してきています。

また、世帯単位では、介護、障害、子育てといった様々な要素が重なり合って複雑化し、複合的な支援を必要とする状況も多く見られます。

さらに、長引くコロナ禍や物価高騰の影響を受け、日々の生活に苦しむ方も増えています。

こうした状況に対応し、誰もが安心して暮らすことができる社会を実現するためには、制度や分野ごとの縦割りや「支え手」「受け手」といった関係を超えて、住民や地域の多様な主体が、世代や分野を超えてつながり合うことが必要です。

ここにお集まりの皆様には、日頃から、様々な方とつながり合い、地域の福祉を支えていただき、大変心強く思います。

私は今後とも皆様と手を携え、誰一人取り残さない「日本一暮らしやすい埼玉」の実現を目指して「ワンチーム埼玉」で取り組んでまいります。

(3) 来賓祝辞【埼玉県議会議長 中屋敷 慎一 様】

県議会においては、社会状況の変化に即し、これまで、「埼玉県ケアラー支援条例」や「埼玉県ひきこもり支援に関する条例」などを議員提案により制定してまいりました。

ケアラー支援については、全国初の条例制定に伴い、11月をケアラー月間として、トークイベントなど集中的な広報啓発を実施し、ケアラーが孤立することのない社会の実現を目指しています。

また、ひきこもり支援については、県内の支援団体に相談するきっかけづくりのため、その活動内容を、今後、SNS等で発信することとしています。

引き続き、社会福祉事業に携わられている皆様のお力添えを賜りながら、県民の皆様が安心していきいきと暮らせるよう、県議会として全力を尽くしてまいります。

(4) 大会宣言

昨年150周年という節目を迎えた本県は、大きな転換点にあります。これまで増加を続けてきた人口は減少に転ずると見込まれます。一方、75歳以上の高齢者人口は全国で最も早いスピードで増加し、超少子高齢社会を迎えます。

地域社会に目を向けると、住民同士のつながりがコロナ禍により一層希薄化し、ヤングケアラーなど社会的孤立が深刻さを増しています。また、経済的困窮や子どもの貧困、虐待などの福祉課題はこれまで以上に複雑かつ多様化しています。

こうした課題に向き合い、乗り越えていくには、福祉関係者はもとより、地域住民、ボランティア、行政など、様々な主体が世代や分野を超えてつながり、「地域の解決する力」をさらに高めていかなければなりません。

私たちは、一丸となってこの難局に取り組み、互いに支え合いながら、あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる「地域共生社会」の実現に向け、地域福祉社会の更なる推進を決意し、ここに宣言します。

4 参加者 約200名

5 その他 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、感染拡大防止対策を徹底した上で開催した。

